

15. ボランティア

吉村 規男

(日本病院ボランティア協会・ホスピスボランティア)

そもそもボランティアは

日本におけるボランティアは1995年の阪神淡路大震災後に定着し、この年を「ボランティア元年」といわれるが、それ以前から活動は行われている。病院ボランティア活動は、2014年ですでに40年以上の歴史を有している。さまざまな活動を行うボランティアの中でも、医療施設で活動するボランティアはかなり先駆的の取り組みであるといえる。

そもそもボランティア活動は、

- ①無償性
- ②自発性
- ③利他性
- ④先駆性（ウィキペディアでは加えられている）

を基本とする市民活動である（図1）。

最近では、災害発生時に多くの人がボランティ

アとして被災地に駆けつける姿が多くみられる。しかし、その歴史は古く、ボランティアとは言われていないが「お互いさま」の精神による助け合いは世界各地にみられる。

ホスピスボランティア

ホスピス緩和ケア病棟で日常的に活動するボランティアをホスピスボランティアというが、彼らは広く病院ボランティアにも含まれる。

病院ボランティアは2014年11月現在、特定非営利活動法人日本病院ボランティア協会（略称NHVA）に加盟しているグループ数で、全国で215グループが活動している。

国内の病院ボランティア活動は1962年に大阪の淀川キリスト教病院で始まっている。

ホスピスボランティア活動は、国内にホスピス



図1 日本病院ボランティア協会加盟グループ数と1,000時間達成者数

が誕生したのとほとんど同時に始まっている。国内のホスピス・緩和ケア病棟は、独立型のホスピスは少なく、そのほとんどが施設の一部の病棟を利用してのホスピス・緩和ケア病棟である。その施設でボランティアが活動を行っており、そのボランティアがホスピス・緩和ケア病棟でも活動を行うということで始まった。したがって、どのような活動を行うか試行錯誤の状態、手探りの状態であった。何を、何をしないかは、日々の活動の中から学んでいった。

ボランティアがいること

① 安らぎを生む

ボランティアは普通の人として医療の場に存在する。実際には、ボランティアは些細なことしか行っていなくても、そこにボランティアがいることで、患者やその家族は安心感を抱く。

医療施設は医師や看護職をはじめ多くの専門家で成り立っている。そこに普通の人（素人）としてのボランティアがいることで、患者・家族の緊張感を和らげる。

② ケアの質の向上に寄与する

病院ボランティアは、病棟で活動することもある。ここでも活動の内容はごく些細なことであったりするが、看護職にとっては日常の業務が忙しくて行うことが難しいことや、時間的にゆとりがなくてできないことをボランティアが補うことになる。そのことで看護職は、その本来の業務に専念することができるようになる。

実際さまざまな活動を行っているが、これらの活動は入院している患者にとって、その入院生活に潤いを与えるものである。そしてその活動がケアの質の向上に寄与するものである。

③ 社会の風を運ぶ

病院ボランティアは、社会で生活する一般人である。病院の中でも、1人の社会生活をする人として存在する。患者との会話でも、「クリスマスの飾りが多くなってきた」「お花見の観光客が多く出ている」といった町の様子や、「紅葉が進ん

できた、今年の紅葉は例年になくきれいだ」「今日は特に暑くて病院に来るのに汗だくになった」といった季節の移ろいなどを伝えることで、社会の風を運んでいる。

ボランティアを受け入れることは、閉鎖的といわれる医療施設が社会に対して開放されることにもつながっていく。

活動内容（ボランティアはどんなことをしているのか）

病院ボランティアの活動内容は、日常的な活動と行事・イベントに関わる活動との2種類の活動がある。通常の日々に行っている日常の活動では、施設が変わってもそう大きな変化はないが、その施設の個性というか独自性の強い活動もある。

関西地区3病院の活動を具体的に挙げてみる。

1. A 病院

毎朝、看護部長から患者さんについての申し送りを聞いた後に活動を始める。

- ①病棟に置いている花の手入れ、花壇の手入れ・植え付け
- ②新しく入院された患者さんのお部屋にウエルカムフラワーをお持ちする
- ③配茶、配膳、おやつ配り（ボランティアがお配りできる患者さんに）
- ④洗濯、買い物
- ⑤喫茶のサービス
- ⑥各種行事・イベントの手伝い
- ⑦ナースの依頼により患者さんの話し相手・見守り・散歩に付き添う
- ⑧ケア用品準備（口腔ケア用綿棒など）
- ⑨入院希望ご家族への院内のご案内
- ⑩その他、病院スタッフから依頼を受けた事項（郵便物のセット、図書の整理など）

2. B 病院

緩和ケア病棟設立と同時にボランティア活動を開始した。約40名のボランティアが月曜日から土曜日まで、曜日ごとに担当を決め活動している。

①環境整備：病棟のホールや病室に花を飾る、病棟の周りの花壇や散歩日のガーデニング、キッチン清掃、地域の方の協力で廊下に季節の写真や切り絵・押し花絵などを飾るなど。

- ②病室訪問
- ③散歩の付き添い
- ④買い物の代行
- ⑤行事の企画と実施：“ひな祭り”“七夕さま”
“クリスマス”など、ほぼ毎月実施。患者さんとご家族に日常を感じていただく。

⑥コンサート：ピアノ、ハープ、ハーモニカ、ギターなどの演奏会を毎月実施。

3. C 病院

①ティーサービス：週2回の午後、サロンで、あるいはお部屋に注文を聞きに行き、ご希望の飲み物とちょっとしたお菓子を提供する。人生の最後の時間を過ごしておられる患者さんに“人生最後の珈琲”になるかもしれないと思えば、丁寧に、そして質の良いものをと心がける。

②フラワーサービス：部屋や廊下などに季節の花をさりげなく飾り、機能本位の病院施設に季節感とひと時の安らぎを届ける。

③ガーデニング：屋外の花壇に季節の花苗を植えたり、場合によれば花壇や畑をつくったりする。

④アロマセラピー

⑤ドッグセラピー

⑥洗濯：患者さんやご家族に代わって洗濯・乾燥のお手伝い。

⑦裁縫：部屋で使う小物からタオル帽子や蓄尿袋のカバーなどの製作。

⑧バー：患者さんによってはアルコール飲料を好まれる方もあり、昼間のティーサービス同様、夜の時間にちょっとしたアルコール類を提供する。時には仕事を終えたスタッフと談笑の声が聞こえたりする。

⑨ナイトシアター：入院していると夜の時間が長く感じるものである。そんな無聊を慰めるひと時になればということで、DVDによる映画の上映会が開かれる。

⑩イベントへの参加：病院の行事の手伝いから、ボランティアが企画し実施する行事、毎月の誕生会のお手伝いなど、結構多彩な活動を行っている。

活動内容は、それぞれの施設ごとで創意工夫がされており、中にはユニークなものもある。基本は、機能本位で無機的になりやすい空間に社会の



図2 メッセージツリー

風を運び、患者さんに日常を感じてもらうことにある。

おわりに

ホスピスボランティアは、医療施設におけるボランティアという点では、病院ボランティアと同じであるが、ホスピス・緩和ケアにおけるボランティア活動という点で異なることも多い。さらに、一般的なボランティアとは、その呼び方であるボランティアとしては同じであっても、活動の質や量、あるいは性格や特徴は大きく異なる。

先日もホスピスでの活動を行うために訪れた施設のサロンに「メッセージツリー」(図2)が掲示され、多くの言葉が寄せられていた。「みんなの笑顔にまた会えたよ」「お母さん、大好きです」「美しいものを見ていきたい!!」「スタッフの皆さん、支えてくださってありがとう」「輝いて毎日を！」どれも、心の叫び・心情を素直に表現している。

ホスピス、そこは命の現場である。1人ひとりの生の現場である。そこでボランティアとしてあ

表1 ホスピス・ボランティア研修事業

開催年	内容と講師	開催地	参加人数
2002年	ボランティアへの思いと期待 (西村幸祐, 田村恵子, 松山 奏)	大阪	332
2003年	どのようにホスピス患者さんを理解するかーホスピスの現場から (下稲葉康之) コーディネーターから見たホスピス緩和ケアボランティア (斉藤悦子) スピリチュアルケアー魂の叫びを聴く (窪寺俊之)	福岡	27
		静岡	89
		京都	158
2004年	《無境界》に近づけるか (徳永 進)	東京	318
2005年	求められる病院ボランティア (中俣直子) 音楽療法ー音楽の可能性 (近藤里美)	鹿児島	120
		札幌	63
2006年	地域に広がる緩和ケア (本家好文) ホスピス緩和ケアーどう理解するか (清水千世)	広島	106
		岩手	68
2007年	ホスピスボランティアとユーモア (アルフォンス・デーケン)	兵庫	294
2008年	死をおそれないで生きる (細井 順)	京都	284
2009年	緩和ケアの目ざすもの (山崎章郎)	兵庫	262
2010年	緩和ケアとコミュニケーション (恒藤 暁)	大阪	209
2011年	「いのち」へのまなざし (藤井美和)	大阪	209
2012年	「日常」というギフトをもたらす病院ボランティアの役割 (石垣靖子)	大阪	239
2013年	ホスピスケアー実践を通して語り継がれるもの (田村恵子, 岡下晶子)	京都	285
2014年	緩和ケアの本質ー全人的ケア 死から生と命を考える (高宮有介) 寄り添う心ースピリチュアルケアの視点から (大河内大博) 生活を途切れさせないためにー緩和ケアとエンパワメント (櫃本真聿) 病院ボランティアの役割とは?ーボランティアのいる病院の風景 (中橋 恒)	兵庫	224
		愛媛	78

ること、大いなる素人としていること、それはわれわれボランティアに生きることの意味を問いかけてくる。ホスピスという閉じた空間で完結するのではなく、社会とつながる中で「生きる」ことを見直す時間と場を多くの人と共有しているのである。

そしてホスピスボランティアの世界にも高齢化の波が押し寄せている。今後のホスピスボランティアのことを考えると、人材の確保と質の維持

はこれまで以上に差し迫った課題である。

その課題への対策としては、各施設の取り組みはもちろんであるが、社会への発信と啓発的行動を横断的組織が取り組むことが不可欠である。たとえば、日本病院ボランティア協会は、日本ホスピス・緩和ケア研究推進財団と共催で研修会を行ってきた(表1)。ほかにもさまざまな講演会・研修会が開かれている。これらの取り組みの重要性はますます大きくなってきている。